

2025(令和7年)度「自然観察会」～円山登山観察会～（主催）の記録

北海道ボランティア・レンジャー協議会

観 察 会	円山登山観察会（円山公園管理事務所～山頂～動物園側下山～登山口解散）	
開催日時	2026（令和8）年1月18日（日）10：00－12：30	
天 候	晴（朝方の新雪約12cmほど） 出発時△3.1℃ 正午△0.7℃ （アメダス札幌）	
参加状況	一般参加者：10人（全員大人）／ボラレン：11人（前日下見会5人）	
観察記録 主なもの	草 本	ミヤマニガウリ（枯れ蔓）、ヨブスマソウ（枯れ茎）、
	木 本	（果実）カツラ、サワシバ、ハリギリ、ホオノキ（不稔？）、 （冬芽ほか）アオダモ、アサダ、アズキナシ、イタヤカエデ、イワガラミ、 ウリノキ、オオバボダイジュ、オニグルミ、オヒョウ、カツラ、カラマツ、 キタコブシ、サルナシ、サワシバ、シウリザクラ、シナノキ、スギ、ニガ キ、ハクウンボク、ハルニレ、ヒッコリー、ホオノキ、マタタビ、ミズナ ラ、ヤチダモ、ヤマブドウ、ユリノキ、
	野 鳥	（留鳥）シジュウカラ、ゴジュウカラ、ハシブトガラ、ヒヨドリ、ヤマガラ、 ヤマゲラ、 ☆随所に真新しいクマゲラの採餌痕 （冬鳥）ウソ・下見会でカツラの果実を啄んでいた * 鳴き声を含む
	虫こぶ 動 物	ミズナラメコガタニセハナフシ、ナラメリンゴフシ？ エゾリス、キタキツネ・フィールドサイン（雪上の足跡）
感想など	<p>・円山公園の入口に集合場所が変更になったことでトイレ問題が解決できたことは良かった。・この変更により、円山公園の歴史（道内最古のカラマツであることなど）に触れるきっかけができたのではと感じます。</p> <p>・お客様と会員が交互に入る並び方は、狭い登山道観察には大変有効と思います。</p> <p>・冬の登山道は特に狭く、冬芽をじっくり観察していただけないのも毎年の課題。</p> <p>・登山口の前で、進むコースの説明を忘れてしまい、お客様が下山は別ルートということを知らずにいたのは反省点。</p> <p>・老若男女広い世代で共通の話題で夢中になれるのはなかなか貴重な観察会でした。・簡易アイゼン（登山口で装着）は、開会式前に装着を済ませることで時短へ。</p>	



円山公園入口での開会式



史跡／島義勇の紀功碑（8 m22 t）



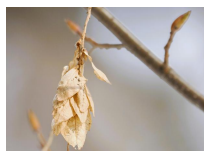
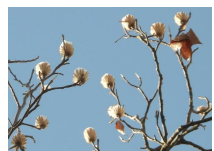
ユリノキの解説



円山山頂での記念写真



ガイド風景／エゾシカによる樹皮はぎの説明



写真：左 雪上に落ちたハリギリの果実
中 北米原産・ユリノキの高所に残る果実
右 サワシバの枝先に残る果実
～今季は、果実が少ない中での希少な光景か

（記録担当：渡辺早苗、蔵谷徳洋、事務局）